

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく4

国立市立国立第七小学校

平成28年11月29日 NO.73 (373)

オー君 「うーん。こまったな。こまったな。」

花ちゃん 「どうしたのオー君。何がそんなにこまったの。」

オー君 「この前、モンタ博士にお話ししてもらった雲について、いろいろ考えたけど、どうしてもちがうんだ。なぜだかわかんないんだ。」

花ちゃん 「何がちがうの。何がわからないの。」

オー君 「モンタ博士は、雲は10種類といったけど、そのどれにも入らない雲なんだ。」

花ちゃん 「え！ほんと！それって、ひょっとして大発見かもしれないね。」

オー君 「大発見…うれしいな。でも、花ちゃんも見たことのある雲だよ。」

花ちゃん 「え！どんな雲なの。」

オー君 「それはね、青い空に、白い線を引く雲さ。」

花ちゃん 「青い空に、白い線を引く雲？」

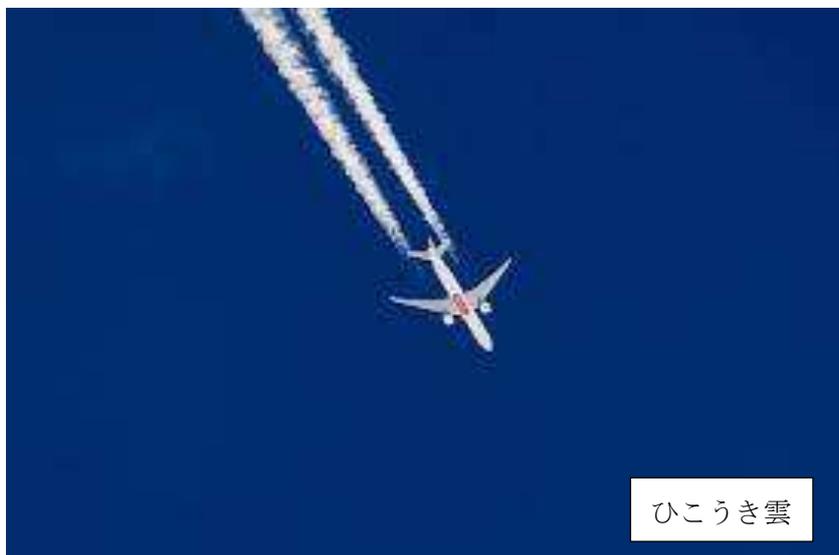
オー君 「うん。白い雲がずうっと伸びているんだ。」

花ちゃん 「ずうっと伸びている？」

オー君 「ずうっと残って見えるときもあるし、すぐになくなってしまうこともある雲なんだ。」

花ちゃん 「残って見える？なくなってしまう？それって、ひこうき雲？」

オー君 「そうそう！ひこうき雲。ところで、ひこうき雲というのは、どの雲の仲間でもなさそうなんだけど、花ちゃんはどう思う。」



ひこうき雲

花ちゃん 「そうね。そういえば、どの雲の仲間からわからないわ。でも、ひこうき雲って、青いお空にまっすぐな線で、見ていてとっても楽しくなる雲ね。」

モンタ博士 「ほほー。ひこうき雲のお話で盛り上がっているみたいだね。」

花ちゃん 「そうなんです。オー君がひこうき雲を不思議な雲だというんです。」

モンタ博士 「なるほど。それでは、きょうはみんなでひこうき雲について考えてみよう。ひこうき雲について、知っていることやわかったことはどんなことかな。」

花ちゃん 「ひこうき雲って、ほかの雲のように自然にできた雲とちがって、ひこうきが飛ぶときだけできる雲なんですね。」

オー君 「ひこうき雲って、いつもひこうきの後ろには出るけど、ひこうきの前には、ぜったいに出ないね。」

モンタ博士 「ほほー！。二人ともいいところに気がついたね。」

花ちゃん 「つまり、ひこうき雲は、ひこうきが雲のもとをはきだすということですね。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおりだね。」

オー君 「でも、どうして、なぜ、何が雲のもとになるのですか。」

モンタ博士 「まず、空の高いところは気温が低いんだよね。」

花ちゃん 「そのとおりですね。」

モンタ博士 「その気温の低いところを飛ぶひこうきが出す水蒸気があるけど、それが何かとくつつくんだけど、何だかわかるかな。」

花ちゃん 「それは、空気中のちりとかですね。」

オー君 「水蒸気と空気中のちりがくっついて、雲つぶができるんですね。」

モンタ博士 「それがひこうき雲というわけさ。おまけのお話だけど、ひこうき雲で天気予報もできるんだよ。」

花ちゃん 「え！本当ですか？わたし知りたいです。教えてください。」

モンタ博士 「ひこうき雲がスッとできて消えるときは、よい天気。反対にだんだん大きくなり、いつまでも残ったりすると天気が悪くなるそうなんだ。」

きのうの全校朝会でご紹介した『赤白のボールから出てくる黄色い電気ネズミ』の作り方を、動画にしました。この文書を近日中に国立七小のホームページにアップしますので、クリックしてみてください。

→<https://youtu.be/bXIXj54TXa4>

また、ユーチューブで「黄色い電気ネズミ」で検索しても見ることができます。